

稲津けんご公式サイト
https://inaken.gr.jp



稲津けんご

府中市議会・市政レポート

稲津けんご

いなづ
2024年 冬号



今号の主な項目

- 1面 【補正予算】「給食費無償化」は恒久的施策へ
- 2面 【一般質問】市政70周年を2つの府中市で祝おう
- 3面 【委員会から】学校の適正規模と配置の案に物申す
- 4面 【議会が謎だから聞いてみた】10. 補正予算を組む意味

補正 予算

【9月議会】隠れ教育費の負担軽減を

「給食費無償化」は恒久的施策へ

● 決定時は時限的とあったが

9月議会で審議された補正予算には、市立小中学校の給食費無償化や、プレミアム商品券「ふちゅチケ」などが含まれていました。補正予算は賛成多数で可決されましたが、給食費無償化については、議会での審議される前に報道機関から発表があり、市内外から問い合わせを多く受けました。

10月に実施された給食費無償化は当初、2024年3月までの時限的なものでしたが、後に東京都から補助金が出ることになり、恒久的な無償化が実現できると期待されます。

3月議会の予算委員会でも給食費について審議される予定です。ここでも無償化に反対する声はないと思います。

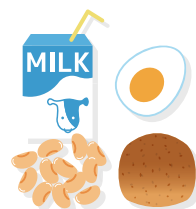


● 慎重に考えるべき課題も

10月に開催された市の給食試食会にて、稲津けんごは担当者から「小麦など一部のアレルギーには対応していない」と伺いました。また、9月議会に稲津と同じ会派の議員が行った一般質問で、アレルギーが原因で家庭からの弁当で対応している児童や生徒がいることも分かりました。

全てのアレルギー物質に対応することは難しいですが、不公平感が起きる対応は避けたいものです。

同時に、アレルギーや食に対する学びも重要だと感じています。国内でもアレルギー症状を起こす食品として指定を受けるものが増えており、より一層の関心をもって考えていきたいです。



市民 の声

【あの後どうなった?】馴染み深くはなかったでしょうが

4回目の「ふちゅチケ」またしても問題が

● 紙タイプ購入のドタバタは解消されず

11月より4回目の実施となった「ふちゅチケ」ですが、前回に続き紙タイプを購入した方から、購入時の状況を伺うことができました。

その方が発売初日に会場へ向かうと、市職員から特に説明がないまま、整理券が渡されたそうです。周囲の話から、ふちゅチケに対しての券と分かり、指示された時刻に戻ると「空きが出て整理券は関係なくなつた」と言われたそうです。しかし、列は非常に長く、30分以上経過して、ようやくふちゅチケを手にしたそうです。

話を伺う限りでも、市の不手際が浮き彫りになりました。



● 上限まで買えなかった方がいても再販売

前回(3回目)の販売の際、アプリタイプを申し込んだ方から、申し込んだ数より少ない購入冊数だったにも関わらず、余りが出たとして再販売があったことに納得できないという声をいただきましたが、今回の販売でも全く同じことが発生したようです。

抽選で予定部数を余りなく振り分けたものの、実際の購入に至らなかった事例は考えられますが、どれだけ余ったのかは不明です。一方、紙タイプでの再販売がないというのも不自然に映ります。

「一次販売・二次販売と分けてあればモヤモヤしないのに」という意見もありました。



一般質問 【9月議会】日本でも例が少ない同一自治体名

市政 70 周年を 2 つの府中市で祝おう

● 1 日違いだけど一緒にお祝いできないか

日本には 2 つの「府中市」があります。1 つは稲津が活動する東京都に（以下：武蔵府中）、もう 1 つは広島県（以下：備後府中）にあります。備後府中が 1 日早く市政を施行しましたが、2 市は友好関係を結び、交流することがありました。

今回の一般質問で、市は「10 月に開催される『国府サミット』に両市の市長が参加することになっている」との答弁がありました。コロナ明けで、再び交流が活発になると期待します。武蔵府中の周年事業ですが、この時点で大きなものは決まっていな



● 備後府中への恩返し

今から 30 年ほど前に、備後府中の使節団が武蔵府中を訪問し、友好の証として備後府中製のラジコンヘリが贈られました。そのお礼に武蔵府中は大賀ハスの種を贈り、備後府中の府中公園で立派な花を咲かせているとのこと。

こうした経緯も市の答弁にあり、稲津は「次は武蔵府中が恩返しをする番だ」と述べ、さらなる交流を要望しました。

ラジコンヘリは現在、議会フロアにあり、備後府中の議員が会派視察に来られた際にヘリとも対面されました。



一般質問 【9月議会】動いていたのは武蔵府中だけでなく

備後府中も協働に前向きな声

● 違いを楽しむのも良い交流

稲津の一般質問があった後、備後府中でも一般質問が開催されました。そこでは、3 名もの議員が備後府中の市政 70 周年事業を取り上げ、いずれも武蔵府中との協働事業を提案されていました。

提案内容は多岐にわたり、文化やスポーツ、産業を通じた交流の他、障がいがある方も参加できる式典やイベントを求める意見もありました。行政側も、協働事業について、特に若い職員からの提案があったことを表明し、商工まつりや国府サミットなどを通じた交流を前向きに捉えていました。

「ただ市の名前が同じだけ」ではない、強い結びつきを予感させる内容に、稲津も前向きに応えたいと考えています。



● 「競う」のではなく「認める」

1970(昭和 45) 年に、当時の自治省（現：総務省）が出した通知では、地方自治体の名前は、既存のものと同じ、または類似したものにならないよう配慮することとあります。武蔵府中と備後府中がそれぞれ「府中市」と名乗れているのは、その通知が出る前に市制を施行したからなのですが、「その状態は良くないのでは」という意見もあちこちで見聞きます。

しかし、今回の双方の一般質問から、違いを競うのではなく認めるという姿勢が見てとれました。実際にどのようなことが実現できるかは、今後の検討にかかってきますが、両市の交流がより深まれば、双方の個性が新たな魅力になっていくと思います。



ひといき 【時代】時代の先取り？ いえいえ、違います

過去の質問が他の議員の質問につながる時

● ピンと来ないこともあるだろうけど

かつて、稲津が「終活」に関する一般質問を行った際、今は引退している議員から「それ聞いてどうするの」と言われました。その方にとって終活とは、行政が関わることはない個人的な行為だという感覚があったのかもしれない。

しかし、実際には行政が関わる事例も多く、終活が単なる個人的行為ではないという認識も強まってきています。

9 月の一般質問で、他の議員が別の視点で終活を取り上げていました。こうして見ると、過去に稲津が質問した意義は大きく、無駄ではなかったと感じました。



● 取り上げられたら大成功…で終わらない

稲津が早くから取り上げたテーマで、後に他の議員も取り上げたものには、自殺対策や犯罪被害者支援、公契約条例（3 頁も参照）などがあります。他の議員による別の視点加わることで、より深い議論が深まることは歓迎すべきです。

しかし、そこで終わってはいけません。稲津も議論に加わり続けたり、検証作業を進めたりしていきます。

また、稲津が他の議員が取り上げた事柄に新たな視点を加えて質問することもあります。誰かの手柄にするのではなく、全体で形にする議論が理想です。



一般
質問

【12月議会】 奇立つのは稲津だけではないはず

足踏み状態の公契約条例を前へ

● 期間は結構あったと思うのだが

稲津が長年訴えてきた「公契約条例」の制定ですが、2021年には同条例の制定を求める陳情が採択され、他の議員からも関連する質問が相次ぎました。今回、稲津は具体的な進捗状況を確認するため、一般質問で深く掘り下げて質問しました。

しかし、市の答弁は「先行事例を参照し、検討する」という言葉が続くばかりで、明確に決まっていることは特にありませんでした。

それでも、市で実施してきた意見聴取やアンケートやなどを通じて何が課題であるかは認識しているとあり、質問しながらその洗い出しを行いました。



● そもそも「公契約」に当たるものとは？

東京都府中市において、公契約が注目されるきっかけとなった出来事は、官製談合事件でした。そのため、公契約は公共工事ばかりだと思われがちですが、実際には指定管理を含めた業務委託なども含まれています。生涯学習センターやプラッツなども「公契約」によって運営されています。当然ながら、公契約に関わる市の部署も多岐にわたるのです。

実際に現場で働く方が、賃金や労働条件などで不利益を被らないよう、条例を制定することが求められます。もちろん、条例にそった動きができる職員の育成も大切です。

一般
質問

【12月議会】 「難しい」で終わらせるのは損

公契約条例から地域の好循環を考える

● 対象労働者をどう守るのか？

公共工事の場合、労働者は従業員だけでなく、個人事業主や一人親方（労働者を雇用せず自分自身や家族だけで事業を行う事業主）も含まれます。こうした方々も当然ながら、公契約条例で守られなければならないのです。雇用や職業の形態で差が出ないようにする必要があります。

労働基準法や最低賃金法などを考慮しながら、賃金の下限額を制定していくべきですが、不当に安い労働単価を設定することは許されません。また、業者（受注者）の変更が生じた場合でも、雇用は確保されなければなりません。

人員不足で末端の労働者にしわ寄せが来ます。そうならないためにも公契約条例が必要です。



● 公契約条例は市民サービスを向上させる

府中市の例をあげると、かつて旧市庁舎に入っていた食堂は、業務委託で運営されていました。しかし、委託業者が撤退し、新たな業者が見つからなかったため、食堂は閉じてしまいました。食堂は市民にも開放されていたため、市民サービスが1つ失われる結果となりました。

利益や人材を確保したり、技術を継承したりできる環境は、市民サービスを向上させると考えます。稲津は、公契約条例を制定するために学者など中立的な立場の方を含めた付属機関を設置することを求めました。また、問題の先送りが続かないよう、物事の期限を切って進めるべきだと強調しました。

委員
会から

【12月議会】 少子化で起こりうることを洗い出す

学校の適正規模と配置の案に物申す

● 事前の協議から見えるもの

学校施設老朽化対策特別委員会で報告を受けた事柄に、10月に行われた市の適正規模適正配置検討委員会の協議内容がありました。その中で、府中七中と府中十中について、小規模校であることから、両校との統合に向けた検討が進んでいることを確認しました。

5年後の生徒数の推計は両校ともに減少し、両校が統合すれば標準規模の範囲に収まるとありました。しかし、単純に統合すれば良いというものではないと考えた稲津は、委員会の場で実情に即した質問を投げかけました。



● そもそも深い議論があつての検討なのか

仮に両校が統合されるとします。七中の校舎を活かすとなれば、最も遠い日新町に暮らす生徒が武蔵台まで通うこととなります。一方、十中の校舎を活かすとなれば、標高の高い武蔵台に暮らす生徒が西府町まで通うこととなります。こうしたことから、各町の地形的な特徴を考慮して協議されたのかを尋ねたところ、そのような質疑はなかったとありました。生徒の通学の負担は考慮されていなかったのです。

稲津は統廃合や学区の見直しには十分配慮するよう要望し、大型の跡地に人口が増えた場合の想定も行うよう求めました。



本会議から 【12月議会】令和、21世紀でも悲しい争いが

世界の平和を求める決議文

● 議会として毅然とした態度を示す

12月議会では、3つの議員提出議案が提出されました。このうち1つは「決議文」として審議されました。

パレスチナ自治区ガザ地区で今なお続いている人道危機に対して、即時かつ持続的な人道的休戦を求める決議文が、市政会を除く全会派が賛同する形で提出されました。提出前に、国会や関係機関への「意見書」にすることも検討されましたが、議会として強い意志を示すために「決議文」として審議することとなりました。

本会議での直接審議の結果、市政会も賛成し、全会一致で可決されました。悲しみの連鎖はすぐに止めたいものです。



● 意見書にも注目する事柄が

残る2つは「意見書」として審議されましたが、いずれも賛成多数で可決されました（反対は市政会と公明府中）。

「旧統一教会による被害救済を求める意見書」は、財産流出を防ぐことや人的支援、カルト的行為の規制を検討する調査会の設置などを幅広く求めるものとなっています。

一方「調布飛行場のさらなる厳格かつ適正な管理運営等を求める意見書」は、周辺住民や自治体の不安を考慮し、米軍を含め、安全対策を遵守した利用を求める内容となっています。



教えて！
稲津さん

議会が謎だから聞いてみた



【質問 10】



最初から「一般会計予算」を多く組めば、「補正予算」なんて必要ないのでは？

【稲津けんごが答えます】

● 補正予算は何故組まれるの？

本当に何事もなく、平穏な1年…となれば、補正予算はいらないのかもしれませんが、しかし、予期せぬ事態は起こるものです。近年で見ても、コロナ禍や物価高対策の事業は、それらが起こる前から予測できたものではありませんでした。緊急時に対応する費用を補正予算として組んでいくのです。

例年、一般会計の予算審議は3月議会に、決算審議は9月議会で行われます。その間に明確な数字が出ることで、予算審議時に想定されなかった不足分が分かることもあります。その補正も時に必要となるのです。

● 補正予算を組まなかった年ってあるの？

私が記憶する限りですが、補正予算を一切組まずに一般会計予算だけで乗り切った年はなかったように思います。先にあげた理由の他、国からの交付金が出たことで、補正予算を審議したこともありました。

ただ、補正予算が組まれた回数は、その年によって異なります。多くは1回か2回程度でしたが、コロナ禍では7回組まれた年もありました。必要となれば、定例会がない時でも審議を重ねてきました。

市の財政は、大きく予算を組んで、余れば繰り越せば良いというものではありません。予算の額が大きくなれば、誰もが不安や疑念を持つことでしょう。その時に適切な予算を組み、適切な範囲で補正するというのが一般的です。



お知らせ 決戦は2024年1月28日

府中市長選挙が実施されます

● 市内には既に決戦の気配が

任期満了に伴う府中市長選挙が、2024年1月21日に告示されます。既に立候補を表明している方が複数あり、PRのためのポスターも市内に貼られるようになりました。

この選挙での注目点は、3期務めた現職への評価に加え、子育て支援、官製談合事件の反省を踏まえた市政改革など、幅広く挙げられるでしょう。皆様の市政への思いを一票に託してください。

投票日は2024年1月28日です。期日前投票もご活用ください。



● 市長選後、3月議会は2月21日から

2024年の3月議会は2月21日に招集され、3月21日まで開催されます。一般質問は2月22日から3日間の日程で実施されます。また、予算審議が3月12日から18日まで5日間開催されます（いずれも土日祝日を除く）。

新年度は5月に所属委員会を決める臨時会が行われます。翌6月に定例会が行われますが、終了後にはすぐ、東京都知事選挙と東京都議会議員補欠選挙が行われます。



←府中市議会を知る
日程や議案など、議会情報は
こちらから

府中市議会を見る→
本会議インターネット中継は
こちらから

